

「上田賛歌」に思う

上田高校関東同窓会会報（84号）に、「今年（2012年）も新入生は女子が上回った」と母校のニュースが紹介されています。我々の時代は45人クラスに平均4人の女性がいただけで、貴重な存在でした。あの威勢の良い校歌の「いざ百難に試みん」をうら若き乙女達が歌っているのかと思うと、まさに隔世の感がありますが、実は校歌の心意気は今や女子にこそよく引き継がれているのかもしれない。

女性の元気なのは今や日本中どこも同じでしょう。スポーツ界では女子選手の活躍が目立ちますが、スポーツに限らず日本の女性は世界各地に飛び出し活躍しています。アフガニスタンのとんでもない僻地で国際機関の職員として働いていたり、あるいはアジアやアフリカでボランティアとして頑張っていたり、もちろんアメリカ、ヨーロッパでプロフェッショナルとして第一線で活躍していたり、世界中で日本人女性が活躍しているのを目にすることがありますが、本当に勇ましいです。それに比べると日本男子は内に籠っているように思いません（あくまでも相対的なことですが）。

私は仕事柄、海外生活が長かったですが、母校の歌があったればこそ何とか生き延びてきたと、今になって深く感謝しています。それは「至高の望み」や「志剛の誇り」と胸を張って「いざ百難に試みん」と自らを叱咤激励する校歌より、むしろ「上田賛歌」でした。女々しいと言わないで下さい。

試合に負けた後に歌った「賛歌」の歌詞のはじめのところ「悲しむなかれ青春の夢の双葉に霜あれど・・・」とか、2番の「憂ふるなかれ・・・」とか、何か仕事の上での困難に出会うと、自然に口ずさんでしまうのでした。ちょっと悲しげに始まるのですが、後半では「望み望みあり・・・理想あり・・・」、2番は「光光あり・・・正義あり・・・」と、最後は「うえだ、うえだ、うえだ、うえだ」と心からの応援になっています。最初のフレーズと最後のリフレインが口をついて出てきて何かしら勇気が出るというか、その日の失敗したことを思いながら次の日に向けて眠る前にちょっとだけ元気になれるのでした。

人生いつも順調に事が運ぶわけではないです。長い人生、むしろ困難なことに遭遇することの方が多く、特に海外ではプレッシャーに1人で耐えなければならないこともありました。酒も飲みました。好きで飲んでいられると言われます

が、それだけではないです。そして酒を飲んでも最後はちょっと悲しくて・・・
そんな時には賛歌が心を慰め、勇気を与えてくれるのでした。これは名歌と思
います。自分にとって「上田賛歌」は母親の応援歌でした。

来たる7月1日上田高校関東同窓会の総会は、実行委員として我々65期を中
心に盛り上げていきたいと思えます。今年の総会懇親会では我々が応援団諸君
のリードで、まずは校歌、次は凱歌と応援歌が歌われます。総会の成功は間違
いありません。校歌、凱歌、応援歌はレコード盤なら一面の歌と思えます。賛歌
は裏面でしょう。だから最初はみんなで一面の歌を歌うのですが、飲んで騒い
で眠る前に私は一人密かに賛歌を口ずさむと思えます。

宮原 豊 (9組)

